

環境報告書

2009 年度

エレクトロニクスの未来を考える技術の…



<http://www.kdwan.co.jp>

～目次～

1. ごあいさつ
2. 会社概要
3. 経営理念
4. 環境マネジメントシステム
 - 4-1 環境方針
 - 4-2 環境管理組織体制
5. 環境活動報告
 - 5-1 事業活動による環境負荷
 - 5-2 環境活動報告
 - ①電力使用量削減
 - ②車両燃料の削減
 - ③環境配慮設計
 - 5-3 その他の取り組み
6. 社会貢献活動
 - 6-1 交通安全指導
 - 6-2 清掃活動
 - 6-3 協立秋祭り
 - 6-4 警察協力

1.ごあいさつ

協立電機は、昭和 34 年の設立以来約 50 年、FA(ファクトリーオートメーション)技術と IT 技術の融合分野であるインテリジェント FA システム市場を対象とした開発型ビジネスを通して豊かな未来社会に貢献し、株主・顧客・社員及びその家族・そして関連する全ての会社や人々と将来の希望を共有し心豊かで風通しのよい企業風土を形成することを経営理念に掲げ今日に至っております。

斯かる経営理念のもと、協立電機のメインビジネスである顧客設備のシステム開発・エンジニアリング・製造を行うに当たっても、常に環境に配慮し、社会の期待にこたえるとともに、大切な地球環境との調和を考えた活動を推進することとしております。

この様に協立電機は、最先端の技術力とこれを支える心豊かで揺らぐことの無い企業倫理を企業風土として、顧客の要望に応えることにより社会に貢献、その際常に環境配慮を忘れることなく、日々努力しております。

また、地球環境への負荷という環境問題にとどまらず協立電機は、地域社会・コミュニティの環境問題にも積極的に取り組み、評価もいただいております。

環境管理活動は、全世界的な環境意識の高まりの中で、ますます重要となり、「持続可能な社会へ向けての企業としての当然の責務」との強い認識の下、更なる取り組み、活動の強化充実、また社員の意識の向上を図ってまいります。

皆様には、協立電機の環境管理活動への取り組みをご理解いただき、あわせてご助言・ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

2010 年 3 月



協立電機株式会社

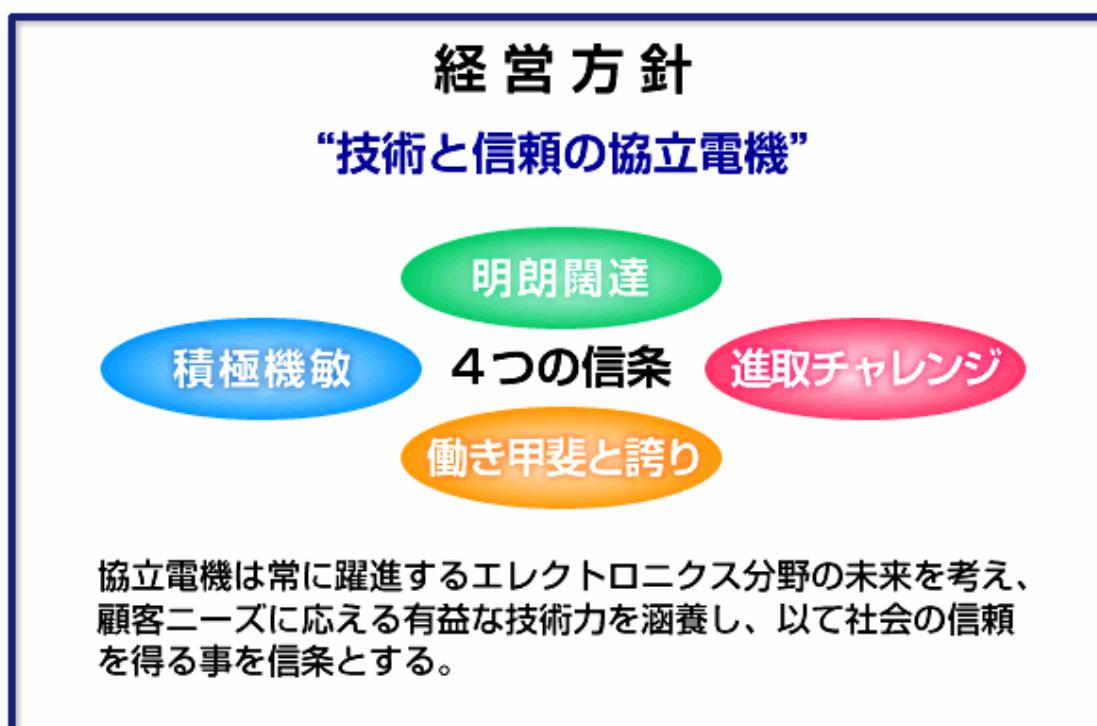
取締役社長 西 雅 寛

2.会社概要

社名	協立電機株式会社
設立	1959年2月
所在地	静岡県静岡市駿河区中田本町 61-1
事業内容	インテリジェント FA システム IT システム インテグレーション リナックス サーバシステム・ソリューションパッケージ ネットワーク型生産管理システム オープン制御システム 環境計測システム ラブラトリーオートメーションシステム 電磁波障害システム 半導体基板検査装置 ロボットシステム 土木シールド・推進工法掘進管理システム 電気設備自動制御工事、計装設備工事 開発・設計・製造・販売・メンテナンスサービス
資本金	1,441 百万円
従業員	502 名 (連結) 313 名 (単体)
売上高	23,020 百万円 (連結) 13,876 百万円 (単体)

(2009年6月期決算報告)

3.経営理念



4.環境マネジメントシステム

4-1【環境方針】

環境方針

理念

協立電機株式会社(本部)、協立機械株式会社(本社)、アプレスト株式会社(本社)、協和電工株式会社(本社)のグループ4社は、P A、F Aほか各種の制御・管理システムの開発・設計とシステムを構成する機器・機械の販売および、これらの設置工事をおこなうことで、社会の期待にこたえとともに、大切な地球環境との調和を考えた活動を推進します。

方針

1. ISO14001環境マネジメントシステムに基づいた環境保全活動を推進します。
2. 事業活動にあたっては、環境関連の法規制および各社が制定した約束事項を遵守して環境保全に努めます。
3. 環境マネジメントシステムに従い、環境目標を設定し実施するとともに、技術的・経済的に可能な範囲で、環境負荷の低減および環境汚染の予防に努め、継続的改善に取り組みます。
 - (1)地球温暖化防止のために省エネルギー化の推進に努めます。
 - (2)資源枯渇防止のために省資源化の推進に努めます。
 - (3)環境負荷低減につながる商品の提供に努めます。
4. 社員および協力会社の方々など関係者に対し、環境教育や広報活動などを実施し、環境方針の理解と環境保全に関する意識の向上を図ります。
5. この環境方針は社外に対して開示します。

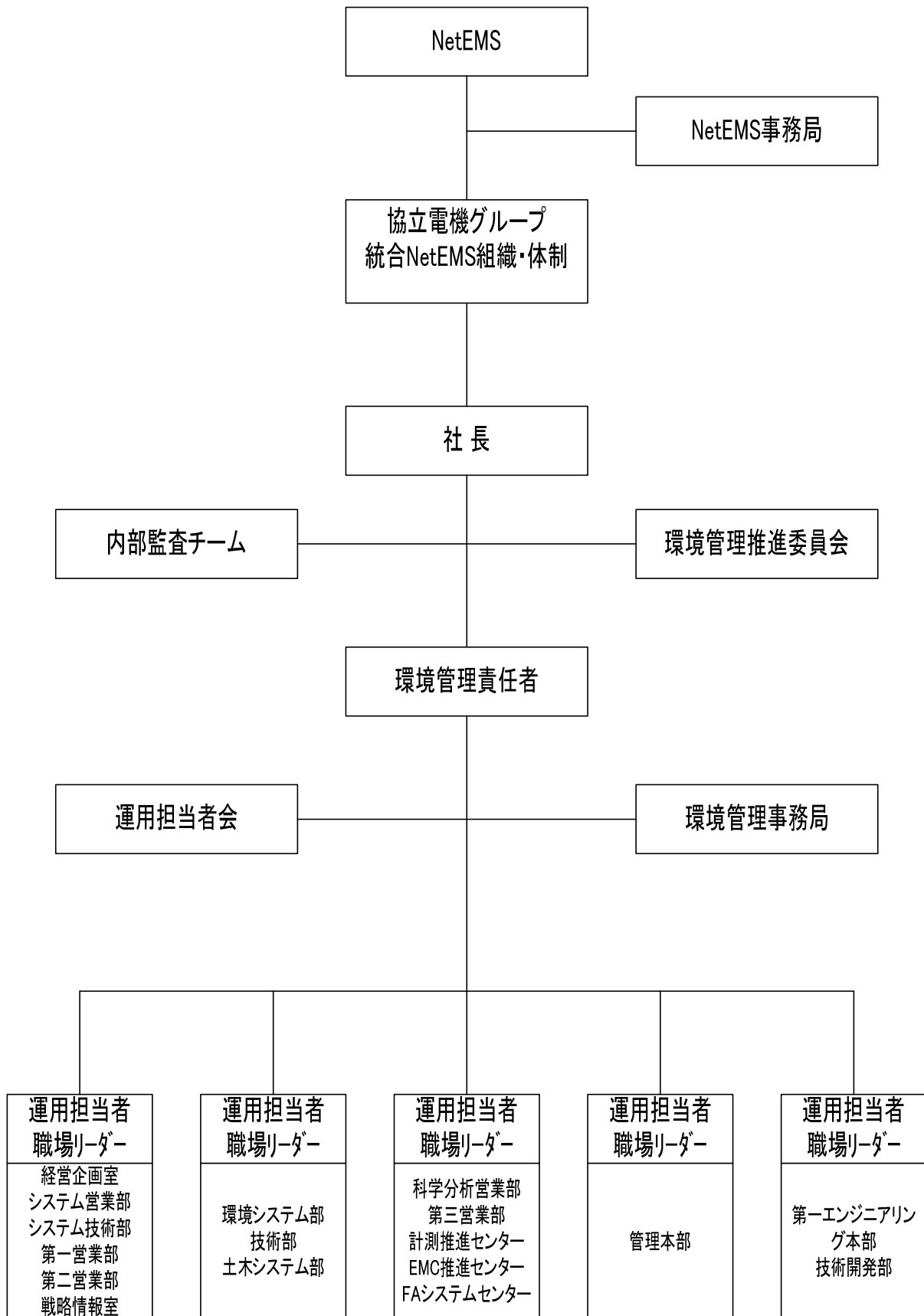
2005年10月1日

協立電機 株式会社

代表取締役社長
西 雅寛

協立電機は環境活動に真摯に取り組み、その1つに、グループ企業にも環境活動の重要性を認識させ、ISO14001の取得を勧め指導してきました。グループ企業3社それぞれが取得致しましたが、現在はグループで統括したISO14001を取得し、協立電機が先導役を果たしています。

4-2 【環境管理組織体制】



5.環境活動報告

5-1【事業活動による環境負荷 2009】

INPUT		
	全社	ISO14001 の 範囲内
電気	544MWH	325MWH
ガソリン	169KL	101KL
上水	3,871 m ³	2,313 m ³
OA 用紙	1,535 箱	1,128 箱
プリンターカートリッジ	331 個	198 個
定形・定形外封筒	86,201 枚	51,500 枚

(*) 本数値には、ISO14001 対象範囲外の CE 本部 (43 名) を含む



OUTPUT		
	全社	ISO14001 の 対象範囲内
ダンボール	6,879Kg	4,110Kg
コピー用紙	586Kg	350Kg
パンフレット	20,270Kg	12,110Kg
トナーカートリッジ	829 個	495 個
廃プラスチック	115 m ³	69 m ³
紙くず	20,002Kg	11,950Kg
可燃ごみ	5,358 個	3,201 個
不燃ごみ	1,423Kg	850Kg

【INPUT・OUTPUT・・・全社人数：313 名、ISO 対象範囲内人数：187 名】

インプット・アウトプットの数値は、事業活動の特性より、略人数に比例しており、インプット・アウトプット数値の全社分には、ISO14001 対象範囲内分に含まれていない営業所等もありますが、ISO14001 環境負荷各項目の対象範囲内の数値を基に、推計しております。

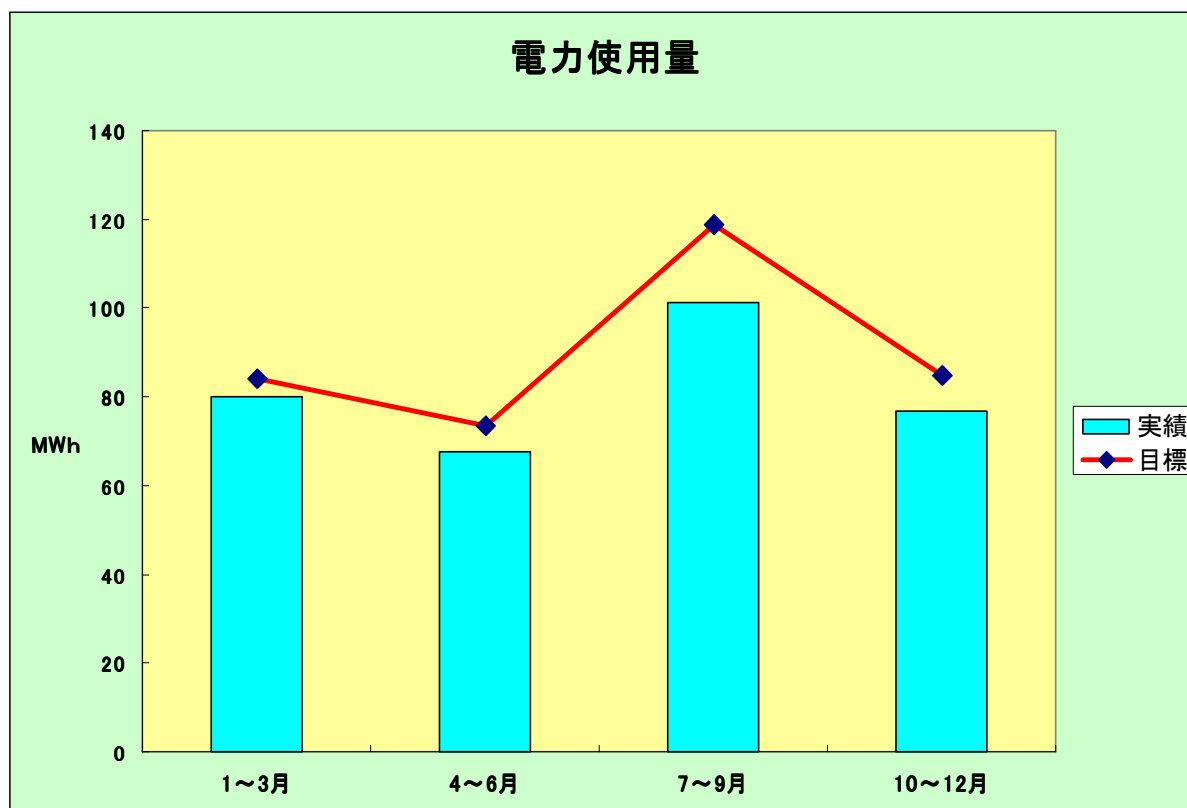
5-2 【環境活動報告】

2008年7月、福田総理大臣の議長のもとに開催された北海道洞爺湖サミットに於いて、G8は長期目標として2050年までに世界全体のCO2排出量を少なくとも50%削減達成の目標を関係国間で共有し、採択を求めることで合意しました。

更に、2009年9月には、鳩山総理大臣が国連気候変動サミットの開会式で先進国の途上国支援策を「鳩山イニシアチブ」と名付けて世界に発信、同時に日本の温室効果ガスを2020年までに1990年比で25%削減することを国際的に公約し、国内の環境対策を加速する姿勢を示しました。

この様な日本がリーダーシップを発揮しリードする地球規模の環境問題に対する取り組みを受けて、協立電機でも社員が一丸となって環境活動に取り組んでいます。協立電機はエンジニアリングに特徴をもった技術に特化した製品を提供しており、生産工程で特に有害物質を排出することがありません。そのため、日常業務における環境負荷減少を目標にし、①電力使用量削減 ②車両燃料の削減 に取り組んでいます。また、エンジニアリングを主体とした製品において、環境負荷低減を考えて ③環境配慮設計 を重要視し、お客様に、環境に配慮した製品設計を提案し、採用頂いています。

5-2-① 《電力使用量削減》



協立電機では、電力使用量前年度比1%削減を目標としています。

エアコンの省エネ運転(温度設定、時間短縮)、定期的なエアコンのフィルター清掃、パソコンの長時間無操作時のモニター電源 OFF 設定、昼休みや終業時のパソコン・フロアの照明・プリンター・コピー機・エアコンの電源 OFF 等、社員一人一人が意識的に行い、各フロア毎にチェックを行っています。

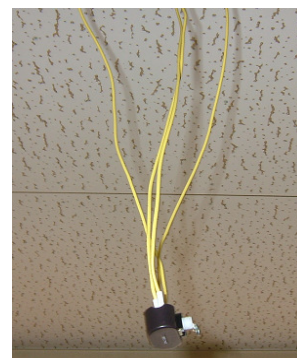
今回、全ての期において目標を達成することが出来ました。

昨年の開発センター所属社員の現状調査と改善案の検討から始まった開発センター2Fのキャノピースイッチの取り付けが、開発センター全フロアと本部にも取り付けをし、無駄な電気は消すという社員一人一人の環境に対しての意識が高まってきた結果が現れたと思います。

～全フロアに蛍光灯のキャノピースイッチ取り付け～

昨年、開発センター2階に蛍光灯のキャノピースイッチを取り付けました。

電力消費量削減について、何かできることはないかという観点で社員が考え、既存の照明器具にキャノピースイッチを取り付け単独回線にして、使用していない照明をこまめに切って節電するのが一番よいだろうということになり、まずは開発センター2階より取り付け作業をしました。



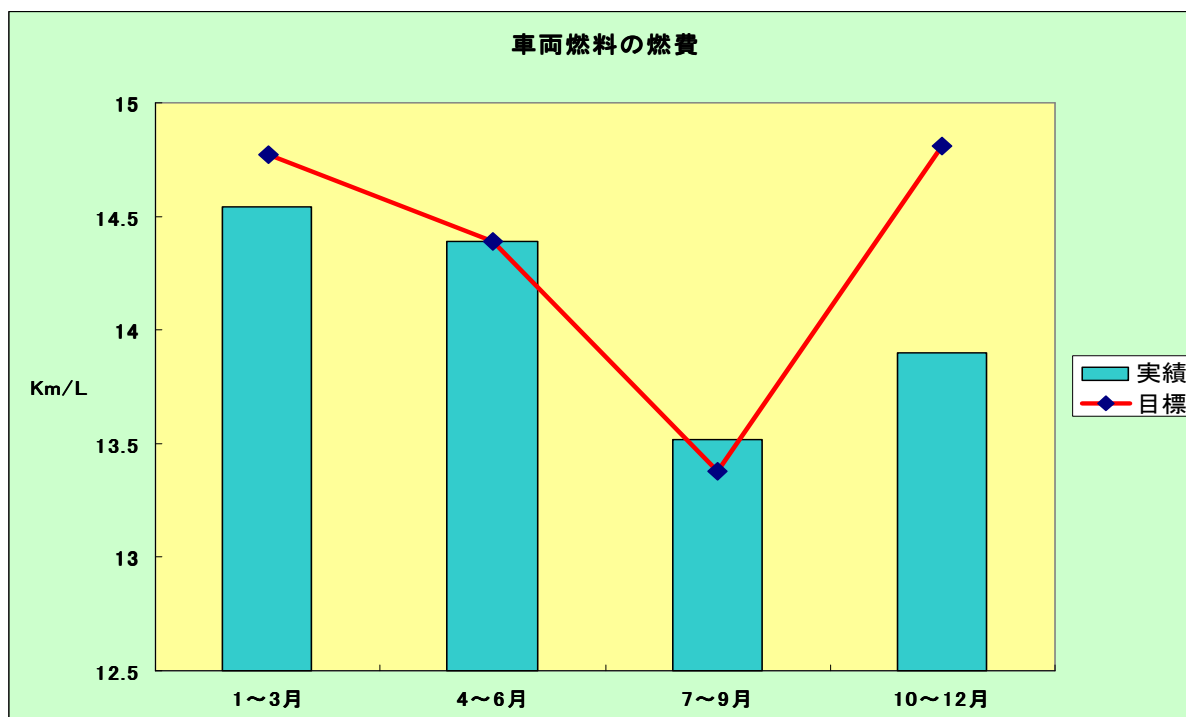
キャノピースイッチ



キャノピースイッチの取り付けにより、電力消費量が減りまた社員の使わない照明は消すという意識も高まったので、開発センター2階だけではなく開発センター全フロアと静岡本部にも取り付けをしました。

外出時、お昼休み、帰社時には照明を消すという習慣が付き、また消し忘れても気がついた人が消すようになり、キャノピースイッチの取り付けによって、社員個々の電力消費量削減に対する啓発に繋がりました。

5-2-② 《車両燃料の削減》



社員一人一人の意識があれば、車両燃料の削減も実現可能との観点より協立電機では、燃費の目標を 14.32Km/L としています。

燃費をよくするには、社員一人一人の環境を意識した運転が大切になりますが、年間を通して、14.09Km/L という、目標未達の残念な結果となりました。期でみると達成している期もありますが、社員の環境配慮意識を更に向上させるとともに、どのような具体的な取組をしていけばよいか、今後の課題となります。

～共同配送への取り組み～

協立電機は、グループ会社の協和電工及び協立機械と共同配送を開始しました。従来は、配送は各社毎に行っていましたが、配送車の環境に与える負荷軽減の為、協立電機本部（静岡市駿河区）、協立機械（静岡市、富士市）、協和電工（静岡市清水区）それぞれの得意先への配送荷物を 3 社の配送車で効率的に共同配送することにより無駄な走行を減少させました。

共同配送への取り組みはスタートしたばかりで、一部のグループ会社及び拠点での取り組みとなっておりますが、これを順次拡大し、環境負荷低減を推進していきます。

5-2-③ 《環境配慮設計》

協立電機のシステム設計部門では、ISO14001への取り組みの目標として「環境配慮設計」の推進を取り上げて活動しており、「環境配慮レビューシート」を作成しております。

インテリジェントFAシステムの仕様決定、ハードウェアの選定、ソフトウェア設計の際に、お客様のシステム条件に応じた環境配慮設計項目をシートにまとめ、お客様へ最適なシステム提案・協議を行い、環境への配慮を意識し、積極的な提案をおこなうことにより、より効率の良いシステムの構築に努め、自社のみならず、顧客設備を含めた環境への貢献を図ることを目的としています。

一般的にエンジニアリング業務は環境に貢献していると考えられますが、環境配慮設計をより意識することでシステムエンジニアのモチベーションが向上し積極的な提案を行うようになりました。その結果、年間目標23.0%に対し、38.9%と高いレベルで達成することができましたので、次年度は目標を45%に上げることにしました。今後の課題としては更なる環境配慮設計の環境貢献度の向上を図ります。

5-3 【その他の取り組み】

～名刺・封筒に間伐材を使用～

協立電機は、豊かな森づくりをサポートする企業として「ふじのくに森の町内会」のサポーター企業に参加しました。「ふじのくに森の町内会 間伐に寄与する紙」を使って木材を活用し、環境保護に協力します。

「ふじのくに森の町内会間伐に寄与する紙」とは、曲がっていたり育ちが悪く細い利用価値のない木材は森林から搬出し運搬するだけでもかなりの費用が必要となる為、間伐等による木材伐採量の約半分が林内に放置されています。

木材を森林に放置するという事は、今まで時間をかけて育ててきた森林資源を無駄にして木材が吸収してきたCO2を大気中に放出させてしまいます。

この搬出すると赤字になってしまう未利用木材を林内から搬出し、「紙資源」として活用します。

使われた紙と同重量の木材を紙の原料であるチップとして利用し、その買取代金に未利用材活用費を加算して森林整備にかかる不足分を補います。

印刷物として使うことで、森林の間伐費用の不足分を補い森林整備を促進する仕組みで、限られた資源を有効活用します。(ふじのくに森の町内会ホームページより)

現在、協立電機では、間伐に寄与する紙を使った封筒・名刺を使用しています。



協立電機株式会社様

貴社をしずおか未来の森サポーターとして認定します。

「ふじのくに森の町内会 間伐に寄与する紙」は森と企業等をつなぎ、静岡県豊かな森づくりをサポートする環境貢献制度です。間伐に寄与する紙をご使用いただいたことにより間伐時に林内に切り捨てられる木材が紙資源として有効活用されています。

平成22年9月

静岡県知事 川勝平太

間伐に寄与する紙には、1kgあたり15日分の未利用材活用費が含まれています。これにより静岡県内の切り捨て間伐を減らすことができます。



【間伐材使用封筒】



～名刺箱の再利用～

今までは名刺を作成の際に、紙製の名刺箱に入れて社員に渡していましたが、無駄を省く為、今まで使っていた個々に配られた名刺箱を、名刺を使い終わっても捨てずに保管しています。そして新しく名刺を作成したときに箱に入れずに渡し、個々の持っている名刺箱に名刺を入れるように再度利用しています。

年間約670個使っていた箱を昨年は約120個配布と大幅削減をしました。

使えるものは何度でも使用するという事を社員一人ひとりが意識しています。



～パイロットシャツ着用～

男性社員にパイロットシャツを配布し、着用することによりネクタイをしない軽装になり、夏の暑い営業廻りをはじめとした外出時、また夏の空調機設定温度28℃の室内においても効率よく仕事が行え、快適に過ごすことができます。



6.社会貢献活動

6-1 交通安全指導

協立電機では安全衛生委員会の管理・指導の下、社員の職場・現場における災害防止・安全管理に加え、地域の安全に協力する一環として毎月、社員が、事故発生率の高い近隣の交差点や通勤歩道に立ち、交通安全指導を行っています。同時にノーカーデーの旗を持ち、社員の通勤時利用のマイカーを自粛して公共交通機関を利用するように呼びかけています。交通安全指導を行いながら、近隣の方と、また社員同士で交わす挨拶は、大切なコミュニケーションとなり、明るい地域づくりに貢献し、また、協立電機が地域に支えられている企業だということを、社員一人一人が再認識しています。



6-2 清掃活動

毎日定時後、社員が集まり開発センター周辺や駐車場周辺の清掃活動を実施しています。毎日清掃していても、道路には紙くずやたばこの吸殻、空き缶などがたくさん捨てられています。今後も継続した活動によって、地域の皆様や環境保全のために貢献していきます。



6-3 協立秋祭り

協立電機の「秋祭り」は、地域では「秋の風物詩」として知られる年中行事です。社長を始めとして社員がお店を開き、焼そばや焼き鳥、綿菓子などを、地域の方や社員の家族に振舞っています。ゲームコーナーでは、子供たちが社員の手作りのゲームを楽しみ、明るい笑い声が響きました。バザーは社員の家庭から様々な品物を持ち寄って行いますが、その家庭でいらなくなったものが他の人に渡り活用され、それが少しでも環境保全に役立つという思いから、毎年積極的に行っています。お店やバザーの収益金は全て、静岡新聞社の主催する「愛の都市訪問」キャンペーンを通じ、児童福祉施設及び特別養護施設等に寄付しており、協立電機の「秋祭り」は毎年好評を得ています。



2009年の秋祭りでは、社員が所属している地元の伝統芸能「静岡浅間木遣保存会」を招き、地域の皆様の前で実演をしました。普段なかなか見ることの出来ない伝統芸能をぜひ皆様に見ていただきたいと思い、秋祭りにお招きしました。

また海外のグループ会社現地社員も参加し、もちつきを体験したり、木遣りを鑑賞したりと日本の文化に触れてもらい、同時に祭に参加した地域の皆様との国際交流もできました。



静岡浅間木遣保存会の実演



海外グループ会社社員の餅つき体験

6-4 警察協力

協立電機では、地域の安全確保に貢献するため、県及び地元警察と緊密な連携の下、地域の安全対策や交通安全運動への全面的な協力を行っています。

環境報告書に関するお問い合わせ

エレクトロニクスの未来を考える技術の...

 **協立電機** 株式会社

TEL : 054-288-8888 FAX : 054-285-1105

経営企画室 中木/福田
